

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<22週> 手足口病 - 定点当たり報告数は4週続けて増加を示した / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<麻疹> 第22週の報告患者総数は1,411で、定点当たり報告数は0.47



病原体情報  
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - 咽頭結膜熱 / 流行性角結膜炎 / 手足口病 / 感染性胃腸炎 - ロタウイルスおよびSRSV / インフルエンザウイルス



速報  
P.6

今シーズンにおけるコクサッキーウイルスA2型の初分離例 - 埼玉県



海外感染症情報  
P.7-8

コソボでウイルス性出血熱の流行 / 世界のHIV感染症およびAIDSの流行状況 - 2001年 / 他



感染症の話  
P.9-12

サイトメガロウイルス感染症  
ヒトサイトメガロウイルス(CMV)感染症は、CMVの初感染、再感染あるいは再活性化によって起こる病態で、感染と感染症は異なることを明確にする必要がある



読者のコーナー  
P.13



グラフ総覧(22週)  
P.14-20



22週のデータ  
P.21-28



# 発生動向総覧

第22週コメント 6月7日集計分

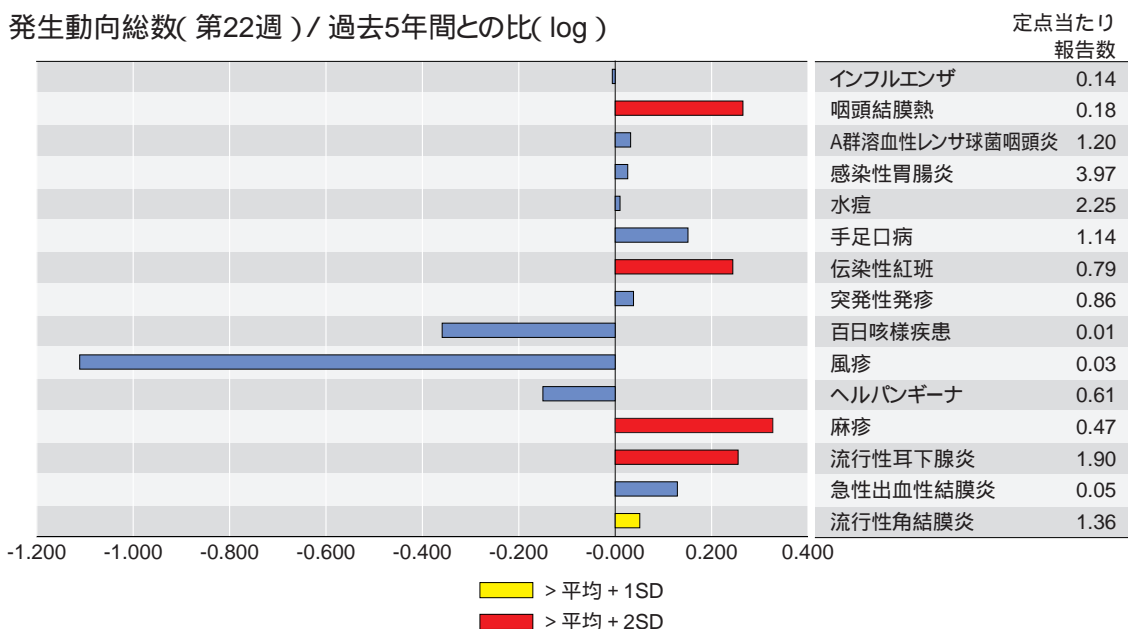
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例( 推定感染地: 台湾 )、細菌性赤痢7例( 推定感染地: 国内3例、ミャンマー、インド各1例、不明2例 )、腸チフス1例( 推定感染地: インド )
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症84例( 関東地方でO157 VT1+VT2、石川県でO157 VT2による集団発生が確認されている )
- 4類感染症: アメーバ赤痢5例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例( 孤発性3例 )、ジアルジア症4例、ツツガムシ病10例( 福島県から4例 )、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、レジオネラ症1例、急性ウイルス性肝炎16例
  - A型 11例
  - B型 5例\_感染経路: 性行為3例、不明2例
- 後天性免疫不全症候群13例( AIDS 4例、無症候性キャリア9例 )
  - 感染経路: 性行為9例( 同性間5例、異性間4例 )
  - その他1例、不明3例
- デング熱1例( 推定感染地: カンボジア )
- 梅毒7例( 早期顕症3例、晩期顕症1例、無症状3例 )
- マラリア1例 型不明( 推定感染地: インド・スリランカ )

## 定点把握の対象となる4類感染症( 週報対象のもの )

麻疹は過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がかかなり多い状態が続いており、都道府県別では熊本県1.8、宮崎県1.5、沖縄県1.4などの報告がある( 詳細は4ページ「注目すべき感染症」参照 )。流行性耳下腺炎は、最近10年間の当該週と比較して最大の定点当たり報告数となっており、福井県7.3、佐賀県4.2、福岡県4.2などの報告がある。伝染性紅斑は定点当たり報告数がかかなり多くなっており、埼玉県2.2、山梨県1.6、宮城県1.5などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近10年間の当該週と比較して最大の定点当たり報告数が2000年第41週から現在まで続いており、都道府県別では滋賀県1.3、愛知県0.7、山口県0.5などの報告がある。今までは殆どオフシーズンであったが、今後夏の本格的なシーズンでの発生の増加が懸念される。

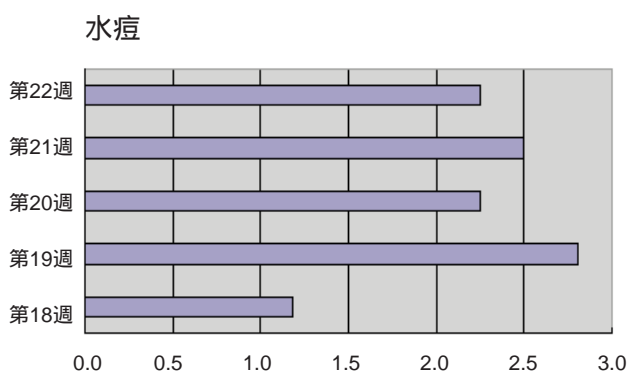
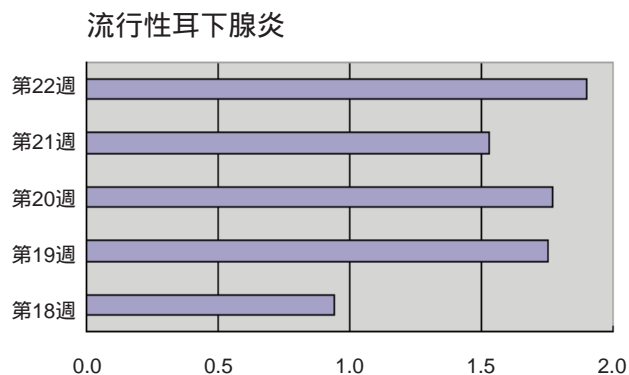
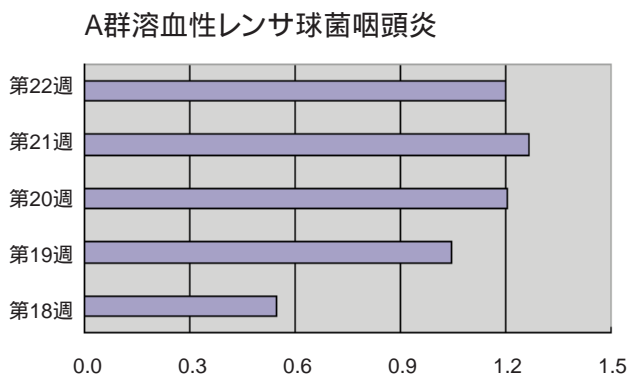
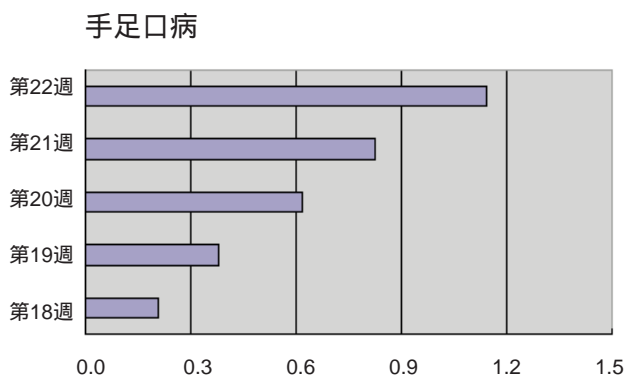
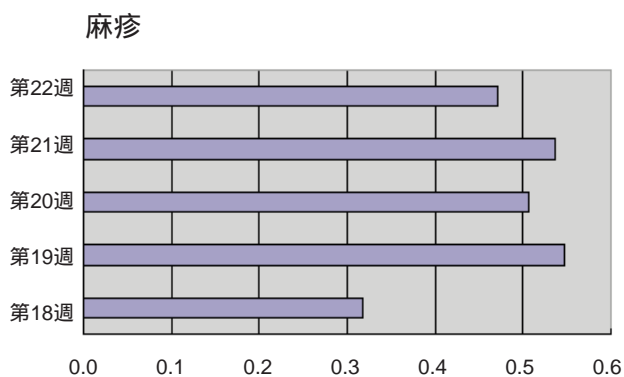
発生動向総数( 第22週 ) / 過去5年間との比( log )



当該週と過去5年間の平均( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 ) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

## 最近の注目疾患－5週間の動き

手足口病の定点当たり報告数は4週続けて増加を示した。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は前週より増加した。麻疹、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘の定点当たり報告数は前週より減少した。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数( 報告総数/定点総数 )を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



# 注目すべき感染症

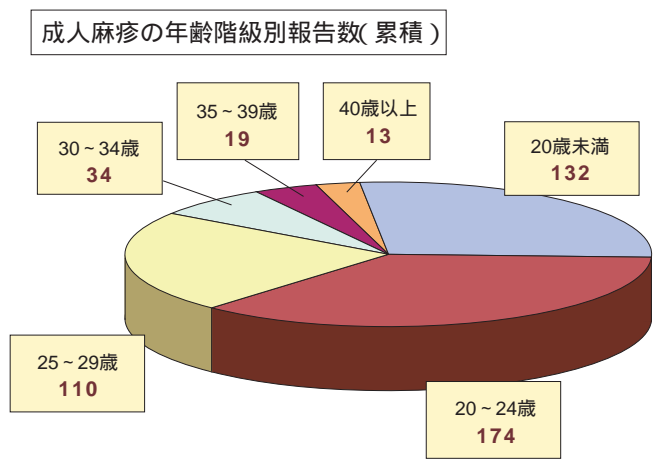
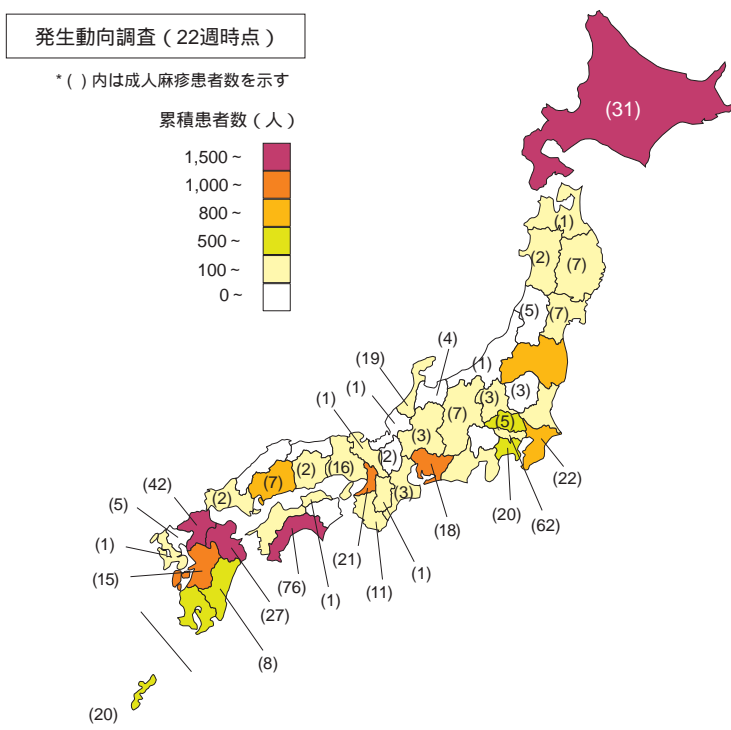
## 麻疹流行状況

2001年は当初より高知県、奈良県、九州地方などで流行がみられ、3月に入って北海道でも患者数が急増し、過去5年間と比較して定点当たり報告数がかかなり多い状態が続いている。

2001年第22週( 5月28日 ~ 6月3日 )の、全国定点医療機関からの麻疹報告患者総数は1,411で、定点当たり報告数は0.47である。2001年第1週からの累積患者数は22,157、性別内訳は男12,045、女10,112とやや男性に多い。累積報告数の年齢階級別では1歳未満2,998(うち6カ月未満280)、1歳4,945、2歳2,236、3歳1,624、4歳1,398、5~9歳5,046、10~19歳3,483、20歳以上427となっている。1999年4月より施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査では、小児科定点から報告される麻疹患者は18歳未満の小児であるが、小児科を受診する成人麻疹患者もあり、実際はこれらの症例が小児科定点を通じて報告されている。

また、上記で報告される麻疹とは別に「成人麻疹(18歳以上)」という項目を設けてサーベイランスを行っているが、これらの症例は基幹病院定点からの報告であり、多くは入院を要するような比較的重症例であると考えられる。2001年第1週から第22週までの成人麻疹累積報告数は482(昨年同期169)、年齢階級別で多いのは、20~24歳(174)、20歳未満(132)、25~29歳(110)などである。

厚生労働省感染症発生動向調査警報・注意報発生システムによれば、麻疹流行警報が福岡県の12保健所、北海道、熊本県、大分県の8保健所など合計95の保健所で、注意報は大阪府の12保健所、神奈川県10保健所など合計98の保健所で発生している。





# 病原体情報

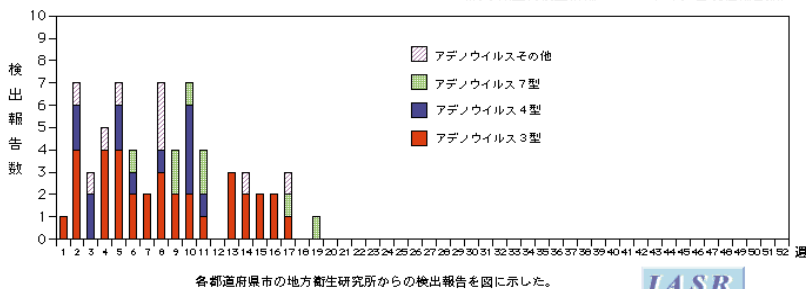
\*グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。

## 咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス

2001年(2001年6月8日現在報告分)

本年、分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型36件(長野県16、広島市4、東京都、滋賀県、岡山県、宮崎県各2、札幌市、埼玉県、奈良県、兵庫県、神戸市、愛媛県、高知県、北九州市各1)、4型13件(兵庫県11、新潟県2)、7型8件(新潟県6、北九州市2)、1型4件(長野県2、広島市2)、2型4件(長野県2、広島市、北九州市各1)、19型1件(広島市1)である。

週別咽頭結膜熱患者からのアデノウイルス分離報告数、2001年  
(病原微生物検出情報: 2001年6月8日現在報告数)



## 流行性角結膜炎患者から分離されたウイルス

2001年(2001年6月8日現在報告分)

本年、分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型26件(札幌市9、香川県6、長野県、熊本県各3、山形県、東京都、滋賀県、大阪府、大阪市各1)、4型12件(札幌市7、茨城県、香川県各2、長野県1)、37型4件(札幌市3、熊本県1)、8型3件(岡山県2、札幌市1)、19型3件(札幌市、山梨県、長野県各1)である。

## 手足口病患者から分離されたウイルス

2001年(2001年6月8日現在報告分)

本年、分離報告されたウイルスは、コクサッキーウイルスA16型(CA16)6件(長野県3、長崎県2、宮崎県1)、A2型(CA2)1件(神奈川県)、エコーウイルス2型5件(大阪府5)、エンテロウイルス71型(EV71)3件(島根県3)である。

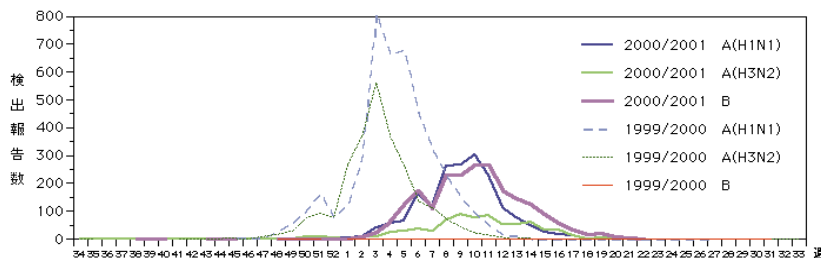
## 感染性胃腸炎 2000/2001シーズン ロタウイルスおよびSRSV検出報告 (2001年6月8日現在報告分)

今シーズンのロタウイルスの検出は378件、SRSVの検出は954件報告されている。最近では、ロタウイルスは第21週に新潟県1、京都市1、大阪市3、奈良県1、第22週に新潟県1、奈良県2、SRSVは第21週に栃木県1が報告されている。SRSVは、過去2シーズンと同様に第50週のピークに加えて、第6週と第8週にも滋賀県などからの報告増加によるピークがみられている。

## インフルエンザ 2000/2001シーズン(2001年6月8日現在報告分)

今シーズンの分離ウイルスは、A/ソ連(H1N1)型が1,805件、A/香港(H3N2)型が741件、B型が2,165件報告されている。昨シーズンはA/ソ連型とA/香港型がともに第3週をピークとして分離されたが、今シーズンはA/香港型が第9週、A/ソ連型とB型は第10週がピークとなった。最近では、A/ソ連型が第19週に2(山形県、新潟県)、A/香港型が第20週に3(山形県、兵庫県、愛媛県)、B型が第21週に3(山形県)、第22週に1(川崎市)が報告されている。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2000/2001シーズン  
(病原微生物検出情報: 2001年6月8日現在報告数)





## 今シーズンにおけるコクサッキーウイルス A2型の初分離例 - 埼玉県

今シーズン初めて、埼玉県内の1医療機関においてヘルパンギーナと診断された2症例からコクサッキーウイルスA2型( CA2 )を分離したので、概要を報告する。

最初の症例は4月3日に発病した1歳10カ月の男児で、発熱は39.6、典型的な咽頭所見であったが、咳などの上気道炎症状を伴っていた。第2例目は4月12日に発病した1歳5カ月の女児で、発熱は38.0であった。

感染症発生動向調査に従い、両症例ともに咽頭ぬぐい液と便が当研究所に搬入された。ウイルス分離は数種類の培養細胞と哺乳マウス( ddy )を用いて実施した。咽頭ぬぐい液を生後24時間以内の哺乳マウスの背面皮下に接種したところ、両検体とも接種後5日目に明瞭な弛緩性麻痺症状を示した。回収したマウスから作製した乳剤を抗原として、国立感染症研究所分与の免疫マウス腹水を使った補体結合反応により同定を実施したところ、分離されたウイルスは2株ともCA2と同定された。培養細胞では、咽頭ぬぐい液、便とも分離陰性であった。

なお、2症例が発生した時期の埼玉県におけるヘルパンギーナの患者報告は、0.02/定点( 14週 )、0.06/定点( 15週 )であり、特に流行はみられなかった。

埼玉県衛生研究所

瀬川由加里 篠原美千代 内田和江 島田慎一 広瀬義文

( IASR2001年7月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照 )



## 海外感染症情報

### コンボでウイルス性出血熱の流行

WHO/CSR 2001年6月8日

コンボのWHO事務所は、2001年5月18日から6月7日に、コンボの南西地区で死者4人を含む患者27人を報告した。患者からの検体は診断確定のため、スロベニアのLjubljanaにあるアルボウイルス・出血熱研究WHO協力センターに送付された。

保健当局は感染予防、流行抑制対策を行い、流行の調査を行っている。

### ペルーで黄熱の流行

WHO/CSR 2001年6月7日

保健省は、ペルーのアマゾン川流域にあるLoreto行政区のPuinahua, San Pabloおよび Iquitosにおいて黄熱が流行していることを報告した。8例が検査室検査で診断が確定されており、そのうちの2例は死亡した。その他に12例が調査中である。

現地では疫学調査が行われており、PAHO( WHO Regional Office for the Americas )はワクチンキャンペーンのために40万人分の黄熱ワクチンを移送した。

### 世界のHIV感染症およびAIDSの流行状況 - 2001年

CDC/MMWR 2001年6月1日

HIV感染症およびAIDSは世界中に蔓延し、公衆衛生上最も大きな問題となっている。HIV感染症には、血液を介する感染や性行為による感染のように様々な感染様式があり、世界中の地域に影響を与えている。また、売春婦、注射による麻薬常用者、男性同性愛者、および貧困者などの恵まれない境遇の人に感染が高率に見られる。

HIV感染が原因で約2,000万人が死亡し、感染患者数は3,600万人と推定されている。

#### サハラ以南アフリカ

サハラ以南アフリカは、HIV感染およびAIDSの影響が最も深刻な地域である。ウガンダ、ケニアおよびタンザニアは、1980年代初期にHIV感染の流行が最初に確認された国である。2000年にサハラ以南アフリカにおいて推定2,530万人がHIVに感染しており、HIV感染率は15～49歳で8.8%であった。2000年には約400万人が新たに感染した。約20%の人が感染している南および東アフリカの7カ国を含めると、16カ国では15～49歳の約10%の人が感染している。HIV感染率が最も高い国であるボツワナでは、大人の36%が感染している。

行動様式の変化、コンドーム普及、HIVに対する無償のカウンセリングと検査、および輸血の安全性の確保、などの徹底的で積極的な予防計画によって、HIV感染率が下がったり、増加のペースが遅くなった国もある。例えばウガンダでは1990年から2000年の間に、大人のHIV感染率は14%から8%に減少した。ウガンダのMasakaでの20～24歳の女性のHIV感染率は、1989～1990年の20.9%から1996～1997年の13.8%に減少した。また、ザンビアのLusakaでは初期に流行が深刻であったが、周産期の15～19歳の女性では、1993年の27%から1998年の17%に減少した。西アフリカのセネガルでは、売春の取り締まり、積極的なコンドームの普及、性感染症の治療や住民教育の予防対策によって、HIV感染率は約2%に抑制され続けている。

## アジア

HIV感染の流行は、効果的な対策の基盤が未発達で世界で一番人口が密な地域に広がっている。中国でのHIV感染率は、1998～1999年には注射による麻薬常用者が82%、売春婦が6%と高く、男女ともに、1989～1998年の全ての報告義務のある性感染症報告においても、継続して増加していた。インドでは15～49歳のHIV感染率は0.7%と推定され、1998年中ごろまでに推定で350万人がHIVに感染していた。

感染率が増加している国の中でタイは例外で、1980年中ごろに注射による麻薬常用者、売春婦やその客から流行が始まり、異性間を通じて急速に広まった。保健当局はHIV感染およびAIDSサーベイランスシステムを運用し、売春における「コンドームの100%使用」を含む効果的な対策を行った。その結果、性感染症とHIV感染伝播が減少したが、これは、軍隊新兵と周産期女性での性感染症の割合、およびHIV感染率の減少として反映された。

## 東ヨーロッパおよび中央アジア

最近、東ヨーロッパでは注射による麻薬常用者の間でHIV感染が急激に増加している。

1999年1月までに、およそ1万人のHIV感染者がロシア連邦で報告された。2000年12月までにロシア連邦の89地域のうち82地域から、注射による麻薬常用者のHIV感染が累計で7万人報告された。ウクライナは東ヨーロッパおよび中央アジアで最も感染率が高い国で、1992～1994年に47例であった年間の感染者報告数は、1997年には15,000例に増加した。1998年と1999年の同地域で報告されたAIDS患者の90%が、ウクライナからであった。

注射による麻薬常用者が多いこと、性感染症の増加、性産業の増加、および社会経済の変化によって、HIV感染はこの地域にさらに蔓延することが予想される。

## 米国および西ヨーロッパ

米国および西ヨーロッパではHAART療法の導入以来、HIV感染による死亡者数がかなり減少している。

しかしながら、男性同性愛者での性感染症の増加や、リスクを伴う行動が増加していることを示す他の指標をみると、HIV感染が増加する可能性がある。

## ラテンアメリカおよびカリブ海地域

ラテンアメリカおよびカリブ海地域でのHIVの伝播経路は、男性同性愛、異性間性的接触、および注射による麻薬常用である。2000年12月までに、推定で140万人がHIV感染/AIDSに罹患していた。1999年には130万人であった。パルバドス、ベリーズ、ドミニカ共和国、ギアナ、ハイチおよびスリナムでのHIV感染率はおよそ1%であった。

カリブ海地域の大人のHIV感染率は2.1%で、地域で見ると世界で2番目に多い。ブラジルでは、無料で抗レトロウイルス療法を受けるのを可能にした政府の政策のために、HIVによる死亡は10万人に対して1995年の約25例から、1999年の約15例に減少している。





## 感染症の話

### サイトメガロウイルス感染症

ヒトサイトメガロウイルス(以下CMV)感染症は、CMVの初感染、再感染あるいは再活性化によって起こる病態で、感染と感染症は異なることを明確にする必要がある。通常、幼小児期に不顕性感染の形で感染し、生涯その宿主に潜伏感染し、免疫抑制状態で再活性化し、種々の病態を引き起こす。このウイルスが感染症を発症するのは主に胎児(一部は先天性CMV感染症患児として出生)、未熟児、移植後、AIDS患者、先天性免疫不全患者などであるが、免疫学的に正常であっても肝炎や伝染性単核症などを発症する場合があります、注意を要する。

#### 疫学

従来、我が国のCMV抗体保有率は欧米諸国に比して高く、乳幼児期にほとんどの人が感染を受けている状態が続いていた。ところが最近、その状況に変化が認められ、妊娠可能年齢の女性におけるCMV抗体保有率は90%台から70%台に減少していることが、いくつかの地域における研究で報告されている。このことは、乳幼児期に初感染を受けずに成人となり、伝染性単核症(2001年第20週号、感染症の話「伝染性単核症」参照;頻度としては、Epstein-Barrウイルスによるものが多い。)や、妊娠中の感染により、先天性CMV感染症患児を出産する頻度が増加することにつながる。胎内感染の頻度は約0.3~0.5%と推定されているが、そのうち症候性感染児は10%以下であると言われている。ただし、新生児期に無症状であっても、難聴や知能障害のような形で発見されることがあり、早期発見が重要である。

感染経路は母乳感染、唾液による水平感染が主経路であり、産道感染、輸血による感染、性行為による感染なども認められている。初感染を受けた乳幼児はほとんどが不顕性感染の形で、その後数年にわたって尿あるいは唾液中にウイルスを排泄する。このことから、保育園などで子供同士の密接な接触によって感染を受けたり、ウイルスを含む尿との接触により感染が成立する。また、既感染の女性においては母乳中にウイルスを排泄しているため、感染源となっている。特に早産児においては、母体から十分量の抗体の移行を受けずに出生に至っているため、初感染から感染症へと発展する可能性が高く、母乳のみならず、既感染者からの輸血にも注意が必要である。

一方、免疫不全者におけるCMV感染症のほとんどは、体内に潜伏感染していたCMVの再活性化による。臓器移植後の免疫抑制剤の投与、悪性腫瘍治療中の免疫抑制、AIDS患者などにおいては、再活性化したCMVが間質性肺炎や網膜炎を発症する。もちろん、初感染による場合も、免疫が正常な人に比して症状は重篤となることが多く、抗体保有の有無を検査しておくことは重要である。

#### 病原体

CMVは、ヒトヘルペスウイルス6(HHV-6)やヒトヘルペスウイルス7(HHV-7)と同じヘルペスウイルス科ヘルペスウイルス亜科に属する。直径約180nm、230kbpからなる2本鎖DNAウイルスで、ヘルペスウイルス科の中では最大である。1957年にRowe,Wellerらにより先天性重症黄疸児の尿から分離されたのが最初である。種特異性が強く、ヒト以外の動物には感染しない。ヒトの体内では広汎な組織に親和性があり、レセプターはまだ確定的には同定されていないものの、ヘパラン硫酸プロテオグリカン、アンネキシンII、CD13(アミノペプチダーゼN)がその対象分子とし

て注目されている。ウイルス側のリガンドとしては、envelopeを構成する糖蛋白であるglycoprotein B( gB )やgHなどが、細胞への進入、伝播、融合に重要な働きをしている。1990年にはCheeらによって全塩基配列が決定され、分子生物学的な研究が飛躍的に進展した。

CMV遺伝子は前初期遺伝子、初期遺伝子、後期遺伝子の順に転写翻訳がなされ、それぞれ蛋白が形成される。この過程は48時間以上かかるとされており、単純ヘルペスウイルスの6～9時間に比して非常に遅い増殖サイクルである。初期遺伝子は主に酵素類などを含み、後期遺伝子はウイルスの骨格を構成する蛋白を合成する。また、CMVは単純ヘルペスウイルスや水痘帯状疱疹ウイルスと異なり、ウイルス特異的酵素であるthymidine kinase( TK )を有さないことも、治療を考える上で重要な性質である。

## 臨床症状

### 1) 先天性CMV感染症

妊婦がCMVの初感染、再感染を受けた場合、あるいは再活性化を認めた場合、ウイルスが胎盤を経由して胎児に移行し、この病気を発症する。症状は重篤なものから軽症、無症状まで幅広いが、一般的に初感染の場合に重篤になることが知られている。これは、TORCH症候群の1つを構成する重要な先天性感染症である。

症状は、低出生体重、黄疸、出血斑、肝脾腫、小頭症、脳内( 脳室周囲 )石灰化、肝機能異常、血小板減少、難聴、脈絡網膜炎、DICなど多彩かつ重篤で、典型例は巨細胞封入体症と呼ばれている。ただし、出生時には上記症状の一部のみの場合や、全く無症状で後に難聴や神経学的後遺症を発症する場合があります、早期発見が望まれる。

### 2) 新生児、乳児期感染

産道での感染、母乳を介した感染が主であるが、ほとんどが不顕性感染かあるいは軽症に経過する。これは母体からの移行抗体による効果が大い。なかには肝炎を発症することがあるが、一般的にself-limitingである。ただし、早産児や低出生体重児の場合は、母親から抗体の移行を十分に受ける前に出生していることから、重篤な症状を呈することが多く、肝機能異常、間質性肺炎、単核症などが主となる。これらの新生児への、CMV抗体陽性母体からの母乳の投与や輸血は避けるべきである。

### 3) 健康人における感染症

抗体陰性のままで経過し、思春期以降に初感染を受けた場合には、伝染性単核症様の症状を呈することが多い。発熱、肝機能異常、頸部リンパ節腫脹、肝脾腫などが主な症状であり、Epstein-Barrウイルスの初感染像と鑑別することは困難である。外科手術などで大量輸血を受けてCMVに初感染した場合にも、発熱、肝機能異常、間質性肺炎、異型リンパ球増多など、伝染性単核症様の症状を呈することが知られているが、重症化しやすい。

### 4) 移植患者における感染症

臓器移植では、ドナー陽性、レシピエント陰性の場合に初感染のハイリスク者となり、定期的なモニタリングが必要である。もちろん、ドナー、レシピエント共に抗体陽性の場合でも、免疫抑制剤の投与により潜伏していたCMVが再活性化し、感染症を発症することが多いため、同様のモニタリングは重要である。早期診断、早期治療がなされない場合は、発熱、間質性肺炎、腸炎、肝炎、網膜炎、脳炎を発症し、移植臓器を失うことにもつながる。

一方、骨髄移植の場合はドナー陰性、レシピエント陽性の場合がハイリスクである。すなわち、再活性化したウイルスを抑制する細胞がドナー由来であり、CMVに対するメモリーを有さないため重篤な感染症を発症する。症状は同様であるが、その他、骨髄抑制(白血球減少、血小板減少)を認めることが多く、臓器移植より重篤である。

## 5 HIV感染者における感染症

CD4陽性細胞が500/mm<sup>3</sup>以下になると、CMVを含め日和見感染症を発症するリスクが高くなる。特に50/mm<sup>3</sup>以下の場合には頻度、重症度共に高い。あらゆる臓器にウイルスが感染するが、網膜炎、腸炎、脳炎を発症することが多く、間質性肺炎は移植患者の場合と異なり、頻度は低い。CD4陽性細胞数が200/mm<sup>3</sup>以下では、症状の有無にかかわらず定期的な眼底検査が必要である。

## 病原診断

### 1) 先天性CMV感染症の診断

2(ないし3)週間以内の尿からウイルスが分離されると確定される。臍帯血や新生児血のCMV IgMを診断に用いることもあるが、陰性である場合もあり、これだけでは不十分である。最近では、分子生物学的手法によるDNA診断やmRNA診断が用いられる。

### 2) それ以外の時期における感染症の診断

検査法には、mRNA検出のためのNASBA(nucleic acid sequence based amplification)法、ウイルス抗原を検出するためのantigenemia法、DNA検出のためのPCR法、直接ウイルスを分離する方法、ウイルス特異的IgM抗体の測定などがあるが、保険適用があるのはantigenemia法とウイルス特異的IgM抗体の測定のみである。病態を把握するためには、複数の検査方法を総合的に判断するのが最も有用である。mRNAの検出はウイルスが活発に増殖していることを意味し、通常潜伏感染状態では検出されないため、感染症発症の予知、ならびに抗ウイルス剤投与中止の指標となり得る。一方、DNAの検出においては、cell free DNAの検出や、通常は検出されない部位からの検出、PCR法のtemplate DNA量を適切に設定してウイルス量の定量をすること、などが重要である。たとえば、乳幼児期の尿中でのDNA検出やウイルス分離は、臨床的意義は少ない(初感染後数年間にわたってウイルスを排泄し続けるため、健康乳幼児でも尿中に検出される)。Antigenemia法は、現在2種類の方法(C7HRP、C10C11)が使用されている。ウイルス抗原陽性細胞が末梢血多形核白血球中に何個あるかの定量が可能のため、一定量以上で検出された場合には抗ウイルス剤の適応があるとされる。

## 治療・予防

治療にはCMV高力価 グロブリン、ガンシクロビル、ホスカルネットが用いられる。病原体の項でも述べたが、TKを有さないウイルスのため、アシクロビルは有効ではない。抗ウイルス剤使用開始基準に関しては、それぞれの病態でかなり異なる。

先天性CMV感染症の場合は抗ウイルス剤の保険適応はないものの、神経学的予後を考えるとその適応も考慮する必要がある。Whitleyらのグループによると、先天性CMV感染症の重症例にガンシクロビルを使用することにより、神経学的後遺症発現の減少や難聴の進行改善などの効果があるとされている。ただし、ガンシクロビルの副作用としての骨髄抑制、不妊症の問題については十分かつ慎重な検討が必要である。また、胎内診断の技術も発達し、今後は胎内治療など

の検討も活発になるものと考えられる。血小板減少や肝機能異常に対しては、CMV高力価 グロブリン製剤の投与が有効であることが多く、用いる価値は高い。

移植後感染症の場合は、抗ウイルス剤のprophylactic therapy, pre-emptive therapyの形で治療がなされる場合が多いが、分子生物学的手法により、感染症を発症する前にウイルス量が増えてきたことを確認してから治療を開始するpre-emptive therapyが最近の主流である。造血細胞移植の場合は、ガンシクロビルは骨髄抑制の問題で使用が困難な時期があり、その場合にはホスカルネットが使用される。一方、腎移植の場合には、ホスカルネットによる腎障害の問題からガンシクロビルが主に用いられる。同じ移植後であっても、造血細胞移植後と臓器移植後では抗ウイルス剤使用開始基準が異なり、造血細胞移植後の方が早期の対応が必要である。いずれの場合も、CMV高力価 グロブリン製剤との併用で使用されることがほとんどである。

HIV感染者におけるCMV網膜炎の治療には、ガンシクロビルの経口製剤やホスカルネットが使用される。

ガンシクロビルの作用機序は、CMVがガンシクロビルをリン酸化する酵素をコードする遺伝子を保有していることから、この酵素によりリン酸化されることによってウイルスのDNA polymeraseを阻害し、ウイルスの増殖を抑制する。初期投与量として1回5mg/kg、1日2回を1時間以上かけて14日間点滴静注する。維持療法が必要な場合は、1日6mg/kgを週5日間、または1日5mg/kgを週7日間、1時間以上かけて点滴静注する。アシクロビルと同様、腎機能障害の程度に応じて減量が必要である。副作用として、前述のように骨髄抑制( 汎血球・顆粒球減少、貧血、血小板減少 )には注意が必要である。

ホスカルネットは、我が国においては現在、AIDS患者のCMV網膜炎にのみ保険適応がある。作用機序は、DNA polymeraseのピロリン酸結合部位に直接結合して活性を阻害することによる。ガンシクロビル耐性ウイルスにはこの薬剤が用いられる。投与量は、1回60mg/kgを1日3回、8時間ごとに1時間以上かけて、あるいは1回90mg/kgを1日2回、12時間ごとに2時間以上かけて、14 ~ 21日間点滴静注する。維持療法が必要な場合には、90 ~ 120mg/kgを2時間以上かけて1日1回点滴静注する。最近カプセル製剤( 1カプセル250mg )が我が国においても発売され、成人で12カプセル/日、分6で投与されている。副作用として腎機能障害があるため、腎機能のチェックが必要である。クレアチニンクリアランスが0.4ml/分/kg以下の者には投与禁忌である。また、カルシウムやマグネシウムをキレートして低カルシウム血症、低マグネシウム血症、低カリウム血症をおこすことがあるため、電解質のチェックも重要である。

抗ウイルス剤治療以外にも、移植患者を対象とし、養子免疫療法などの研究も進んでいる。これはCMVに対するCTLを造血細胞移植の場合はドナーの末梢血から、一方、臓器移植の場合はレシピエントの末梢血から樹立し、in vitroで増殖させ患者に戻す治療法である。従来donor leukocytes transfusion( DLT )などの方法も用いられてきたが、養子免疫療法の方がよりCMVに対して特異的に治療が行える。

先天性CMV感染症の予防方法としては、未感染妊婦は乳幼児と密接な接触をさけることなどがあげられる。欧米では未感染妊婦の保育士などにおいては、乳幼児の担当を避けるなどの配慮がなされているようである。ただし、これには妊娠中の抗体検査が必要となる。早産児においては感染母体からの母乳を避けること、抗体陽性者からの輸血を避けることが重要である。移植患者などにおいては、移植前にドナー、レシピエント共に抗体検査をしておく、その後のモニタリングにも応用可能であり、早期診断・早期治療に直結するので重要である。

( 国立感染症研究所感染症情報センター 多屋馨子 )



## 読者のコーナー

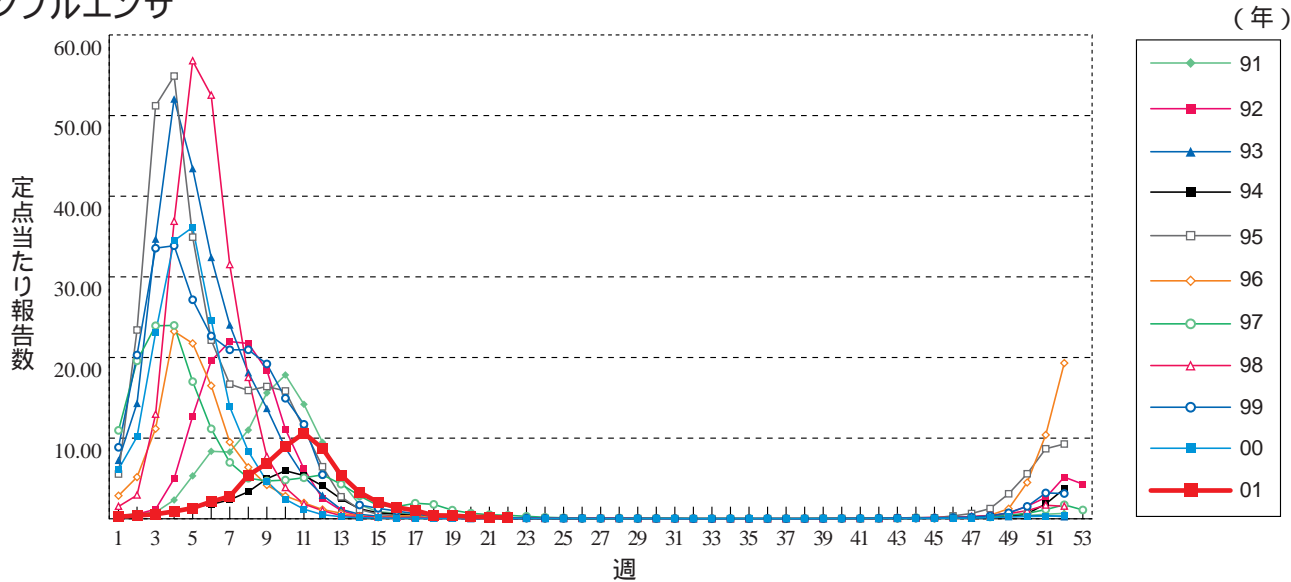
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

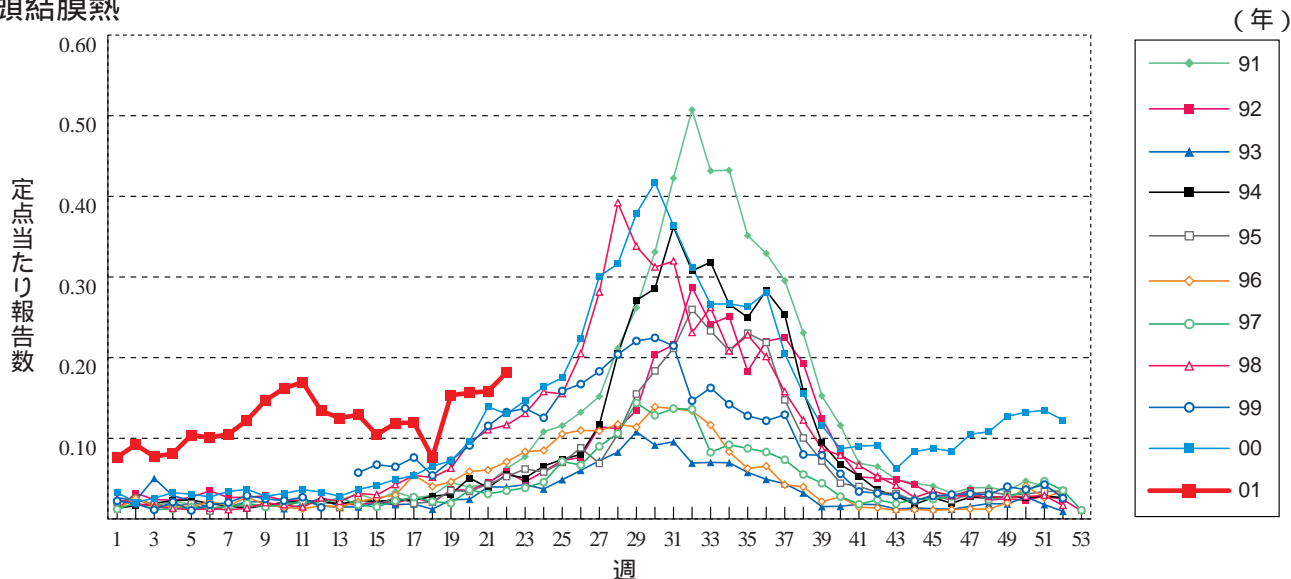


**グラフ総覧(22週)**

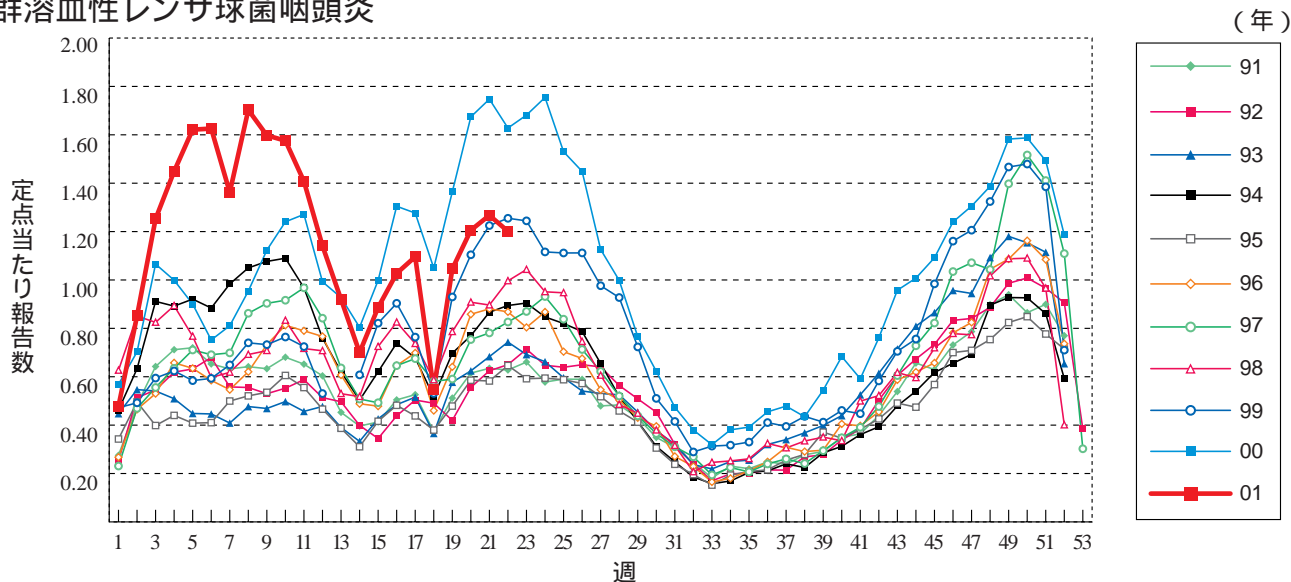
**インフルエンザ**



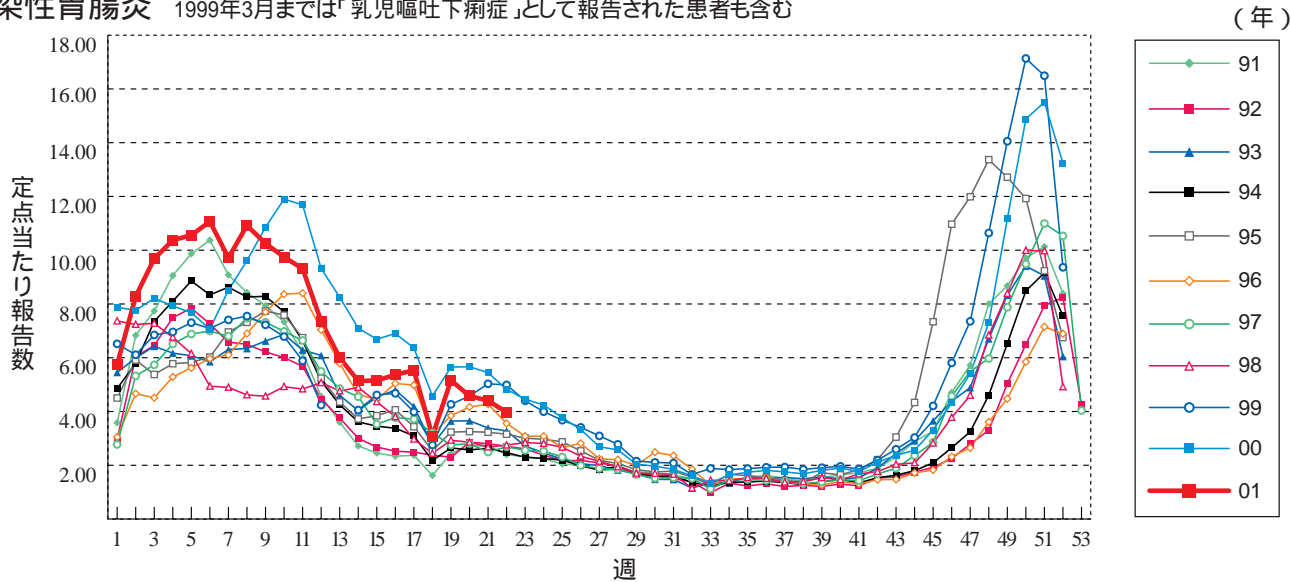
**咽頭結膜熱**



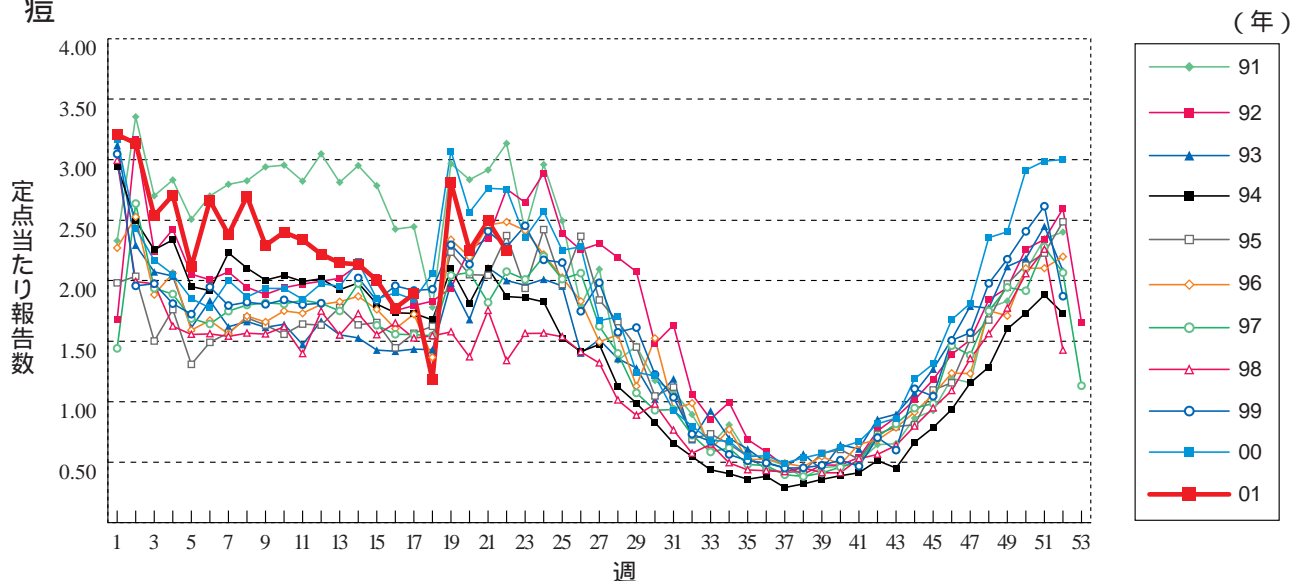
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



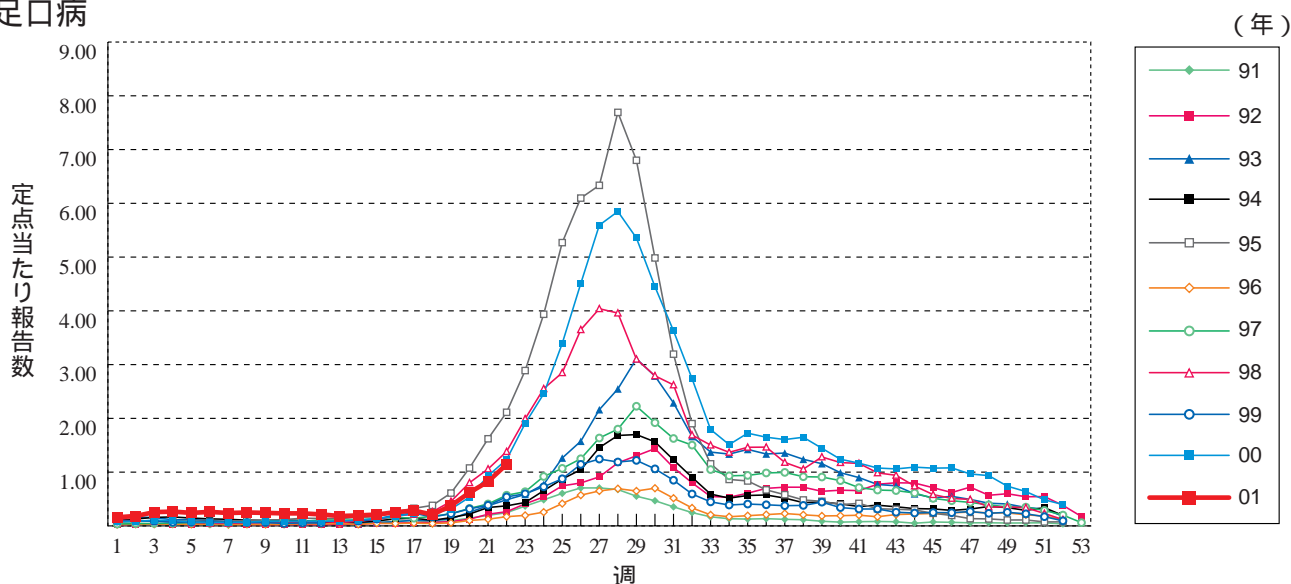
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



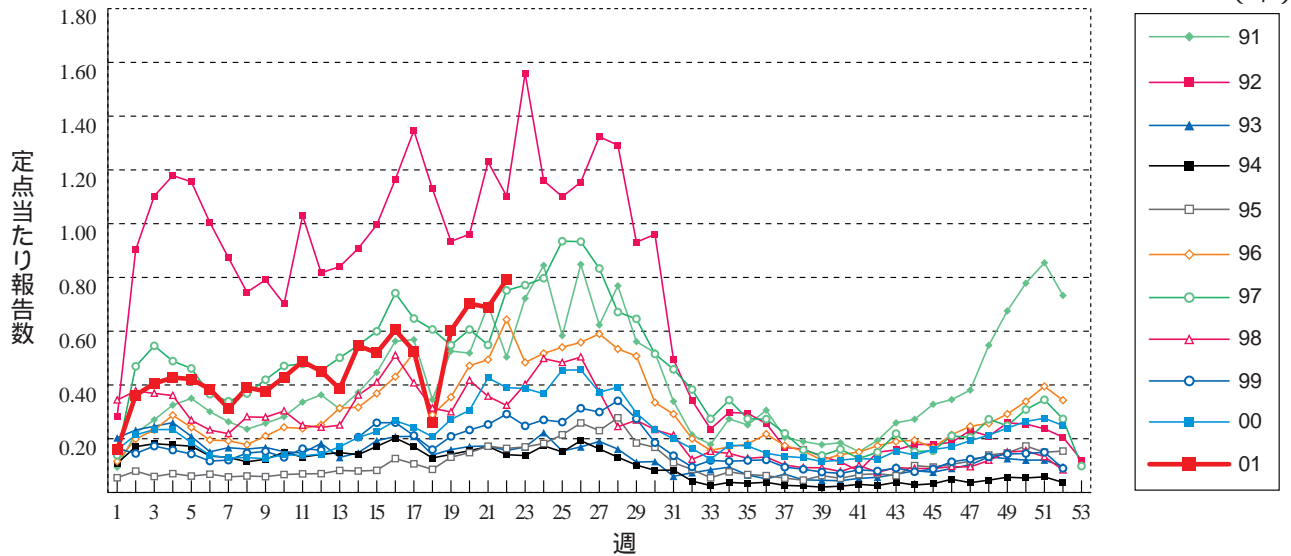
**水痘**



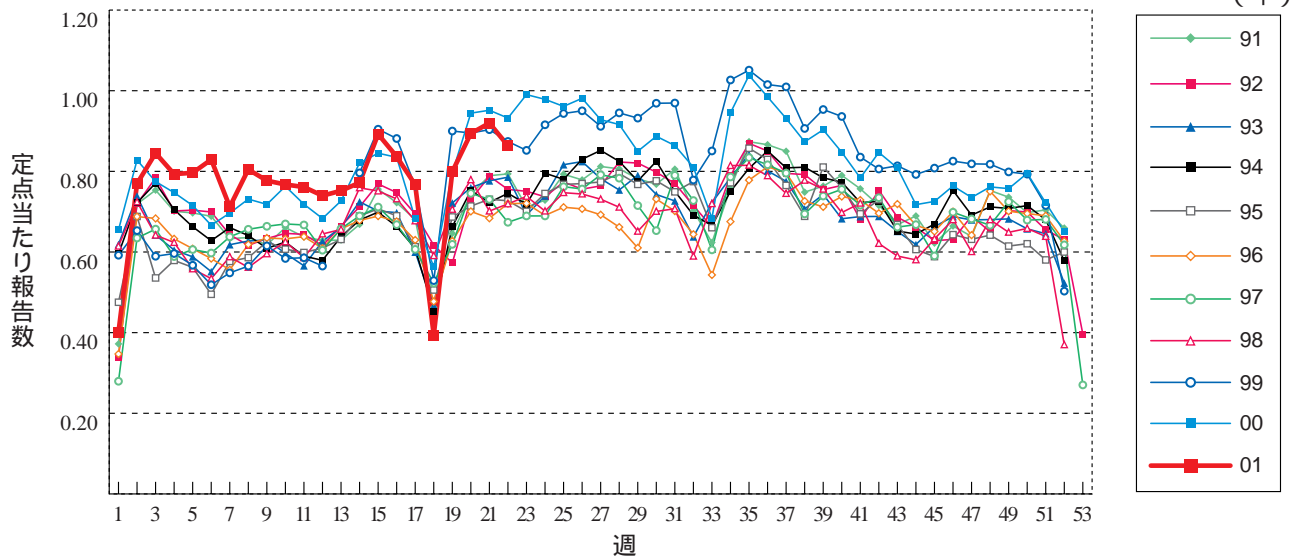
**手足口病**



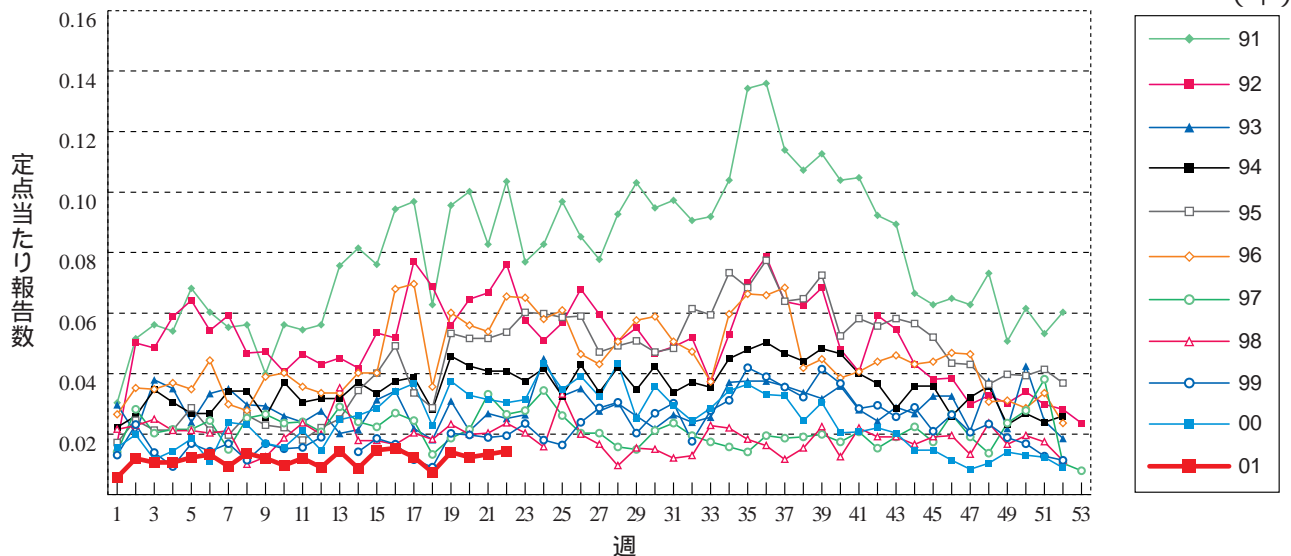
伝染性紅斑



突発性発疹

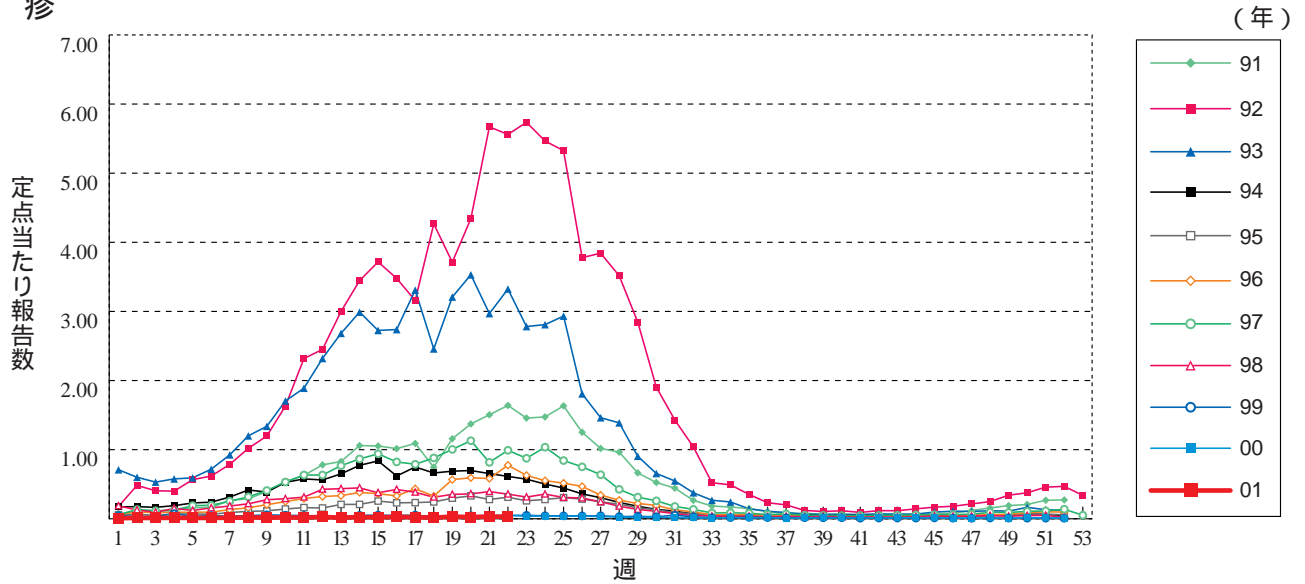


百日咳

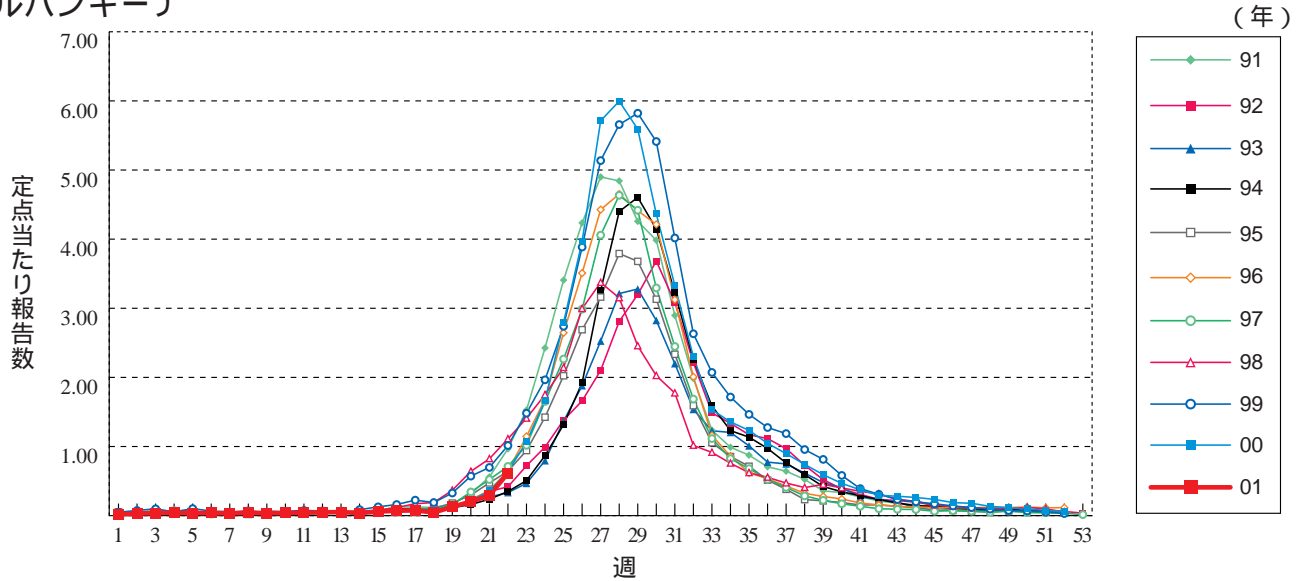




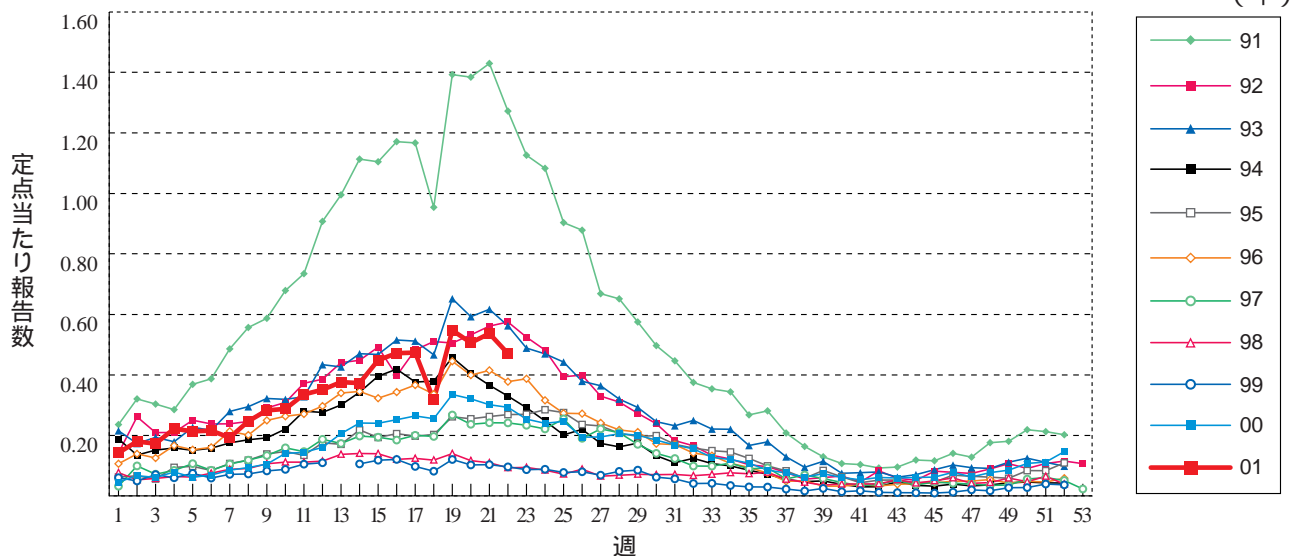
風 疹



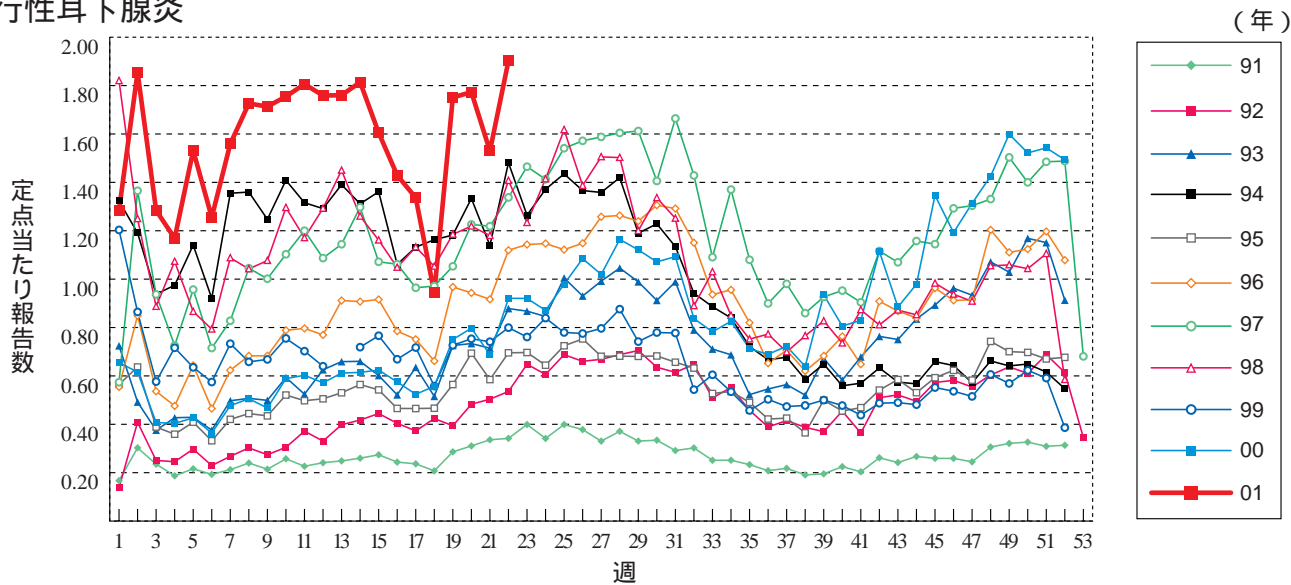
ヘルパンギーナ



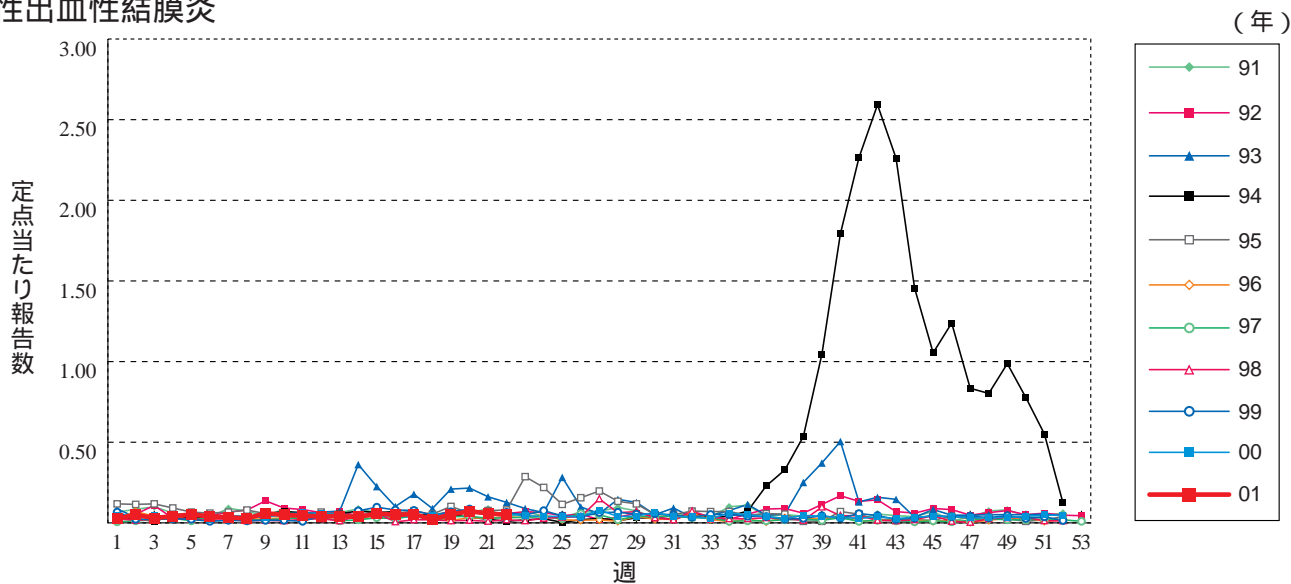
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



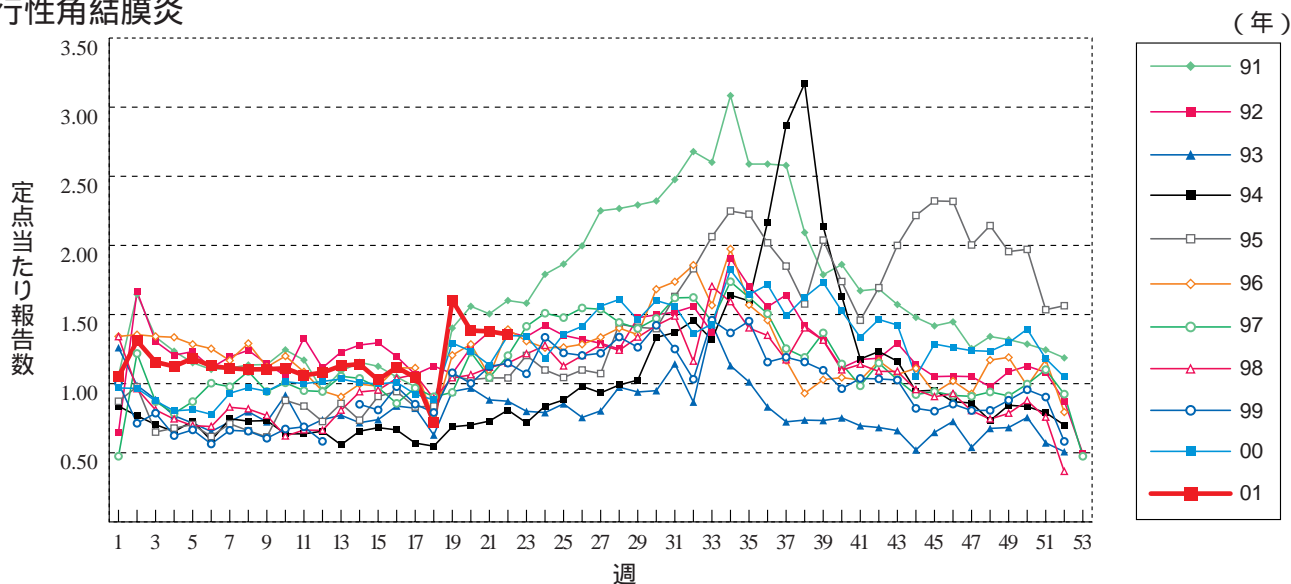
**流行性耳下腺炎**



**急性出血性結膜炎**

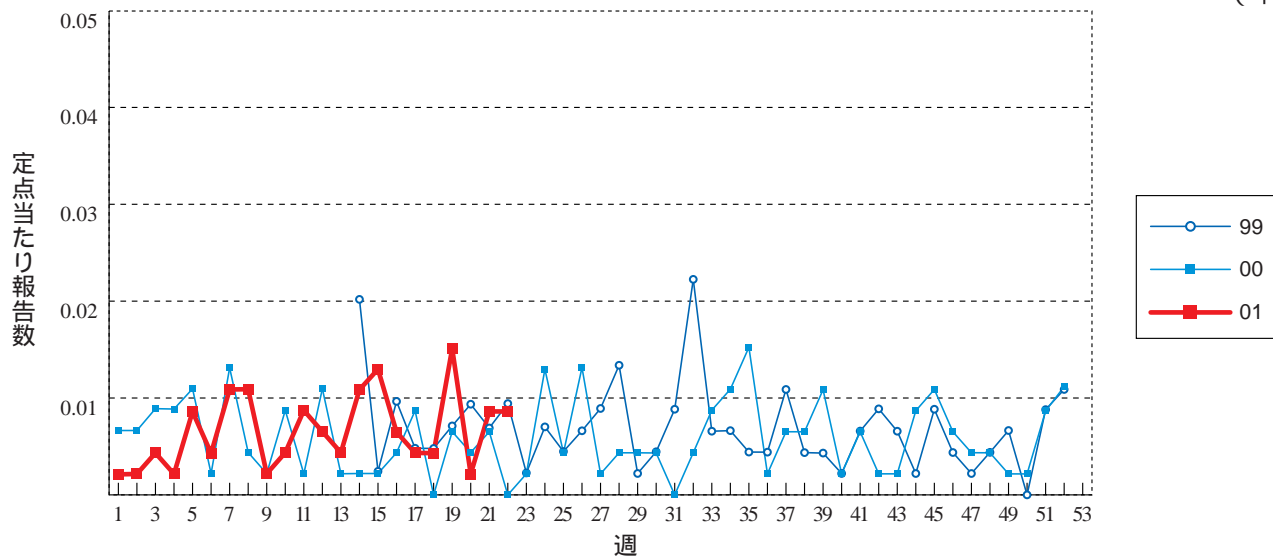


**流行性角結膜炎**



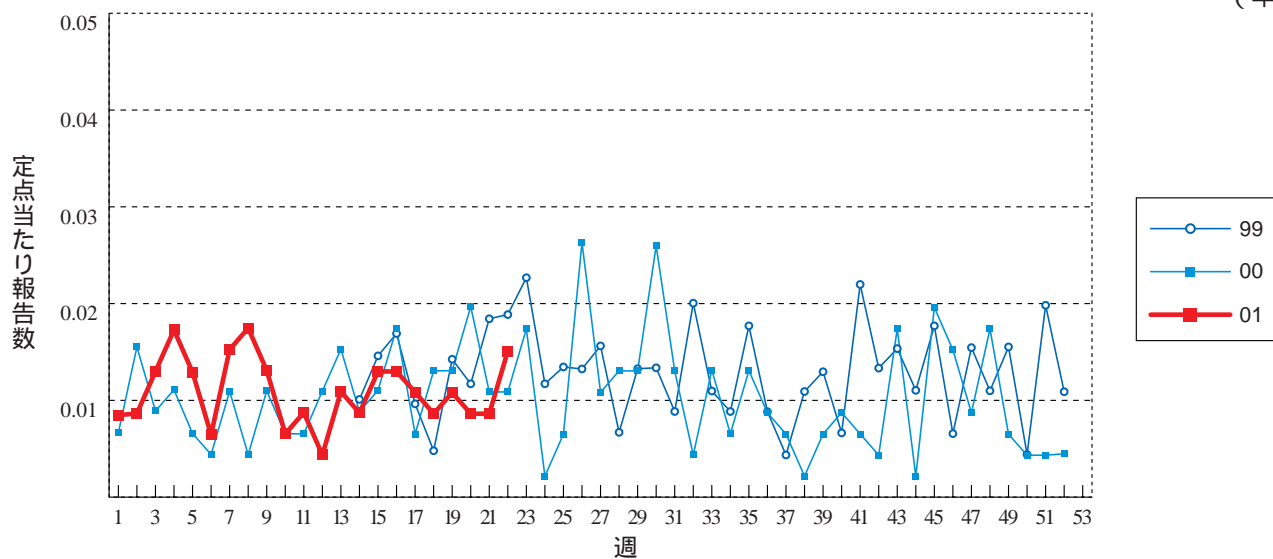
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



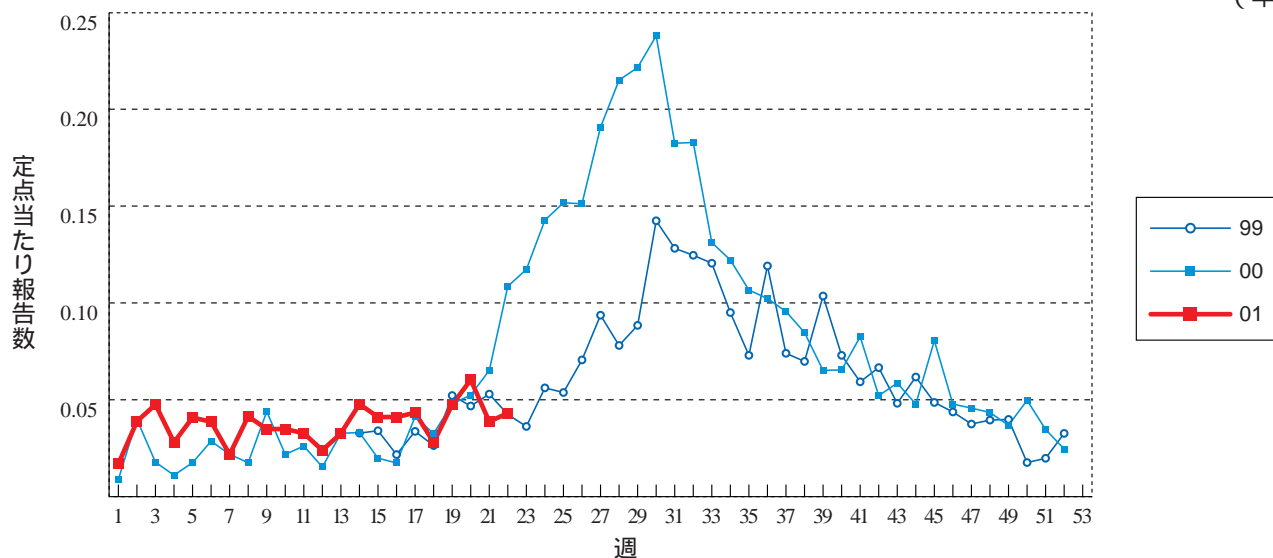
細菌性髄膜炎

(年)



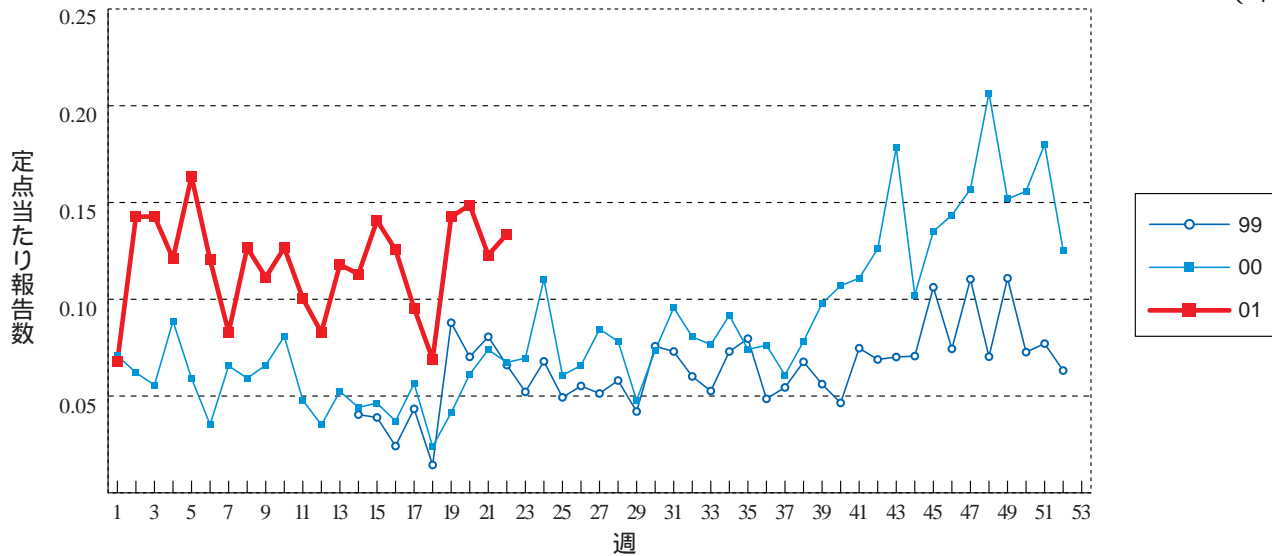
無菌性髄膜炎

(年)



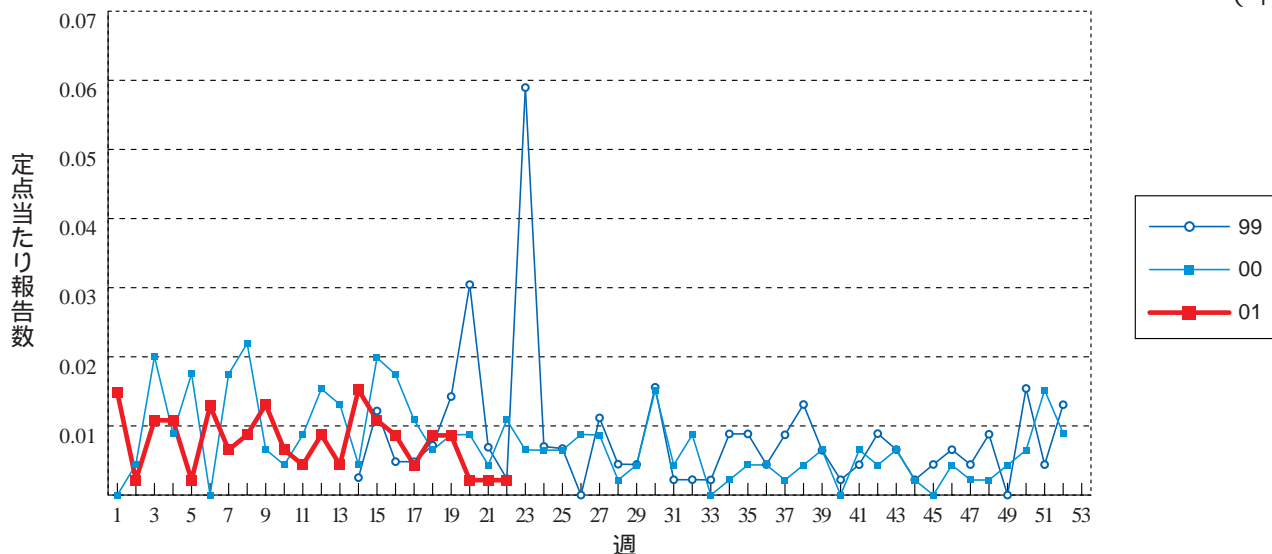
マイコプラズマ肺炎

(年)



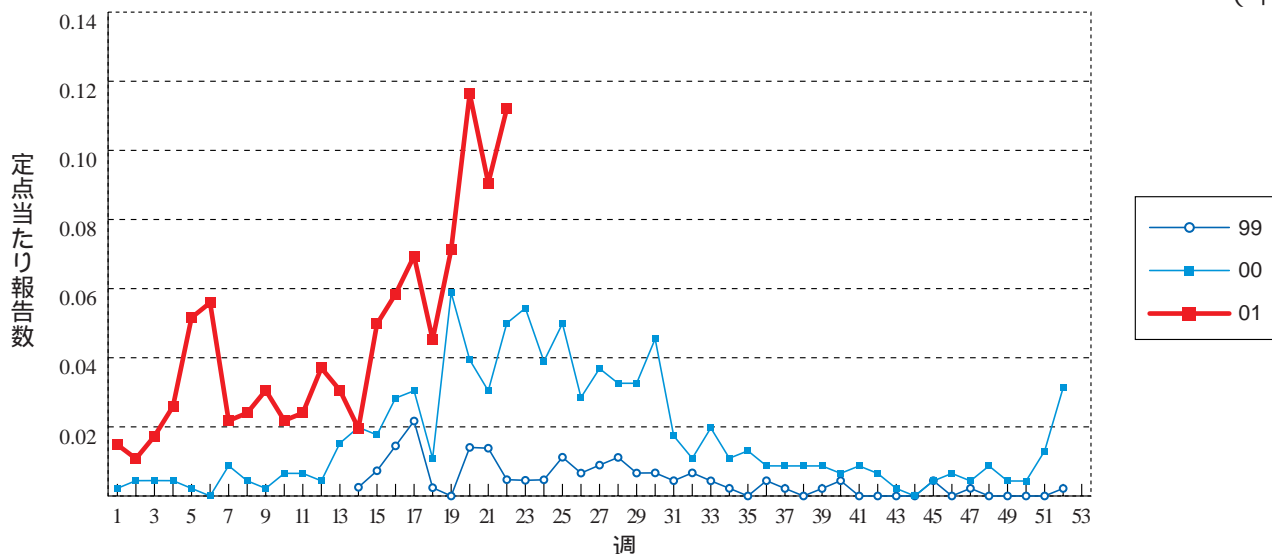
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





## 22週のデータ

注)表中の報告数は6月7日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年22週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14	7	271	1	25	-	9
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	14	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	1	55	-	7	-	6
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	20	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	9	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	18	1	3	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	19	-	5	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	5	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	13	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年22週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	84	755	5	141	-	3	-	-	-	14	-	-	16	338
北海道	-	-	-	-	10	19	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	4
青森県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4
宮城県	-	-	-	-	1	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
秋田県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
茨城県	-	-	-	-	3	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
栃木県	-	-	-	-	3	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
群馬県	-	-	-	-	4	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
埼玉県	-	-	-	-	11	60	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	1	7
千葉県	-	-	-	-	6	152	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	8	51	2	41	-	-	-	-	-	6	-	-	5	50
神奈川県	-	-	-	-	5	56	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	2	20	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	3	8	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
静岡県	-	-	-	-	-	12	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	3	34	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
三重県	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	13	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	28	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大阪府	-	-	-	-	7	73	-	25	-	-	-	-	-	3	-	-	1	31
兵庫県	-	-	-	-	4	26	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34
奈良県	-	-	-	-	3	21	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
鳥取県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
広島県	-	-	-	-	3	24	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	1	9
山口県	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	-	21	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮崎県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
鹿児島県	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年22週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	-	-	3	3	40	-	20	13	360	-	1	4	59	-	-
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	11	-	-	1	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	2	23	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	3	154	-	-	-	29	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	1	-	3	-	-	1	37	-	-	-	5	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	1	7	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	1	3	-	2	-	12	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	5	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	1	5	-	1	1	27	-	-	3	9	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年22週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ボツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	3	-	-	-	-	10	114	1	12	-	3	-	-	-	-	7	209
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	2	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	4	11	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
東京都	-	1	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-	-	-	-	40
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	2	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
長野県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	40
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	2
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	10
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2



第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年22週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	18	1	17	-	-	-	-	-	-	-	-	1	39	-	-	1	31
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
千葉県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
東京都	-	1	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	1	5
神奈川県	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
新潟県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年22週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	659	0.14	544	0.18	3601	1.20	11909	3.97	6740	2.25	3431	1.14	2373	0.79	2589	0.86	43	0.01
北海道	23	0.10	6	0.04	182	1.26	301	2.08	389	2.68	14	0.10	41	0.28	82	0.57	1	0.01
青森県	8	0.13	-	-	33	0.80	55	1.34	79	1.93	6	0.15	13	0.32	21	0.51	1	0.02
岩手県	22	0.36	1	0.03	28	0.76	75	2.03	83	2.24	3	0.08	33	0.89	21	0.57	-	-
宮城県	9	0.09	6	0.10	88	1.49	284	4.81	166	2.81	6	0.10	86	1.46	69	1.17	-	-
秋田県	32	0.58	1	0.03	49	1.40	156	4.46	46	1.31	13	0.37	43	1.23	27	0.77	1	0.03
山形県	36	0.75	-	-	64	2.13	117	3.90	42	1.40	9	0.30	36	1.20	21	0.70	2	0.07
福島県	4	0.05	2	0.04	48	1.00	205	4.27	102	2.13	3	0.06	59	1.23	52	1.08	-	-
茨城県	12	0.10	7	0.10	73	1.00	250	3.42	101	1.38	12	0.16	22	0.30	32	0.44	1	0.01
栃木県	-	-	2	0.04	88	1.91	115	2.50	82	1.78	1	0.02	25	0.54	51	1.11	-	-
群馬県	8	0.08	18	0.29	125	2.02	172	2.77	130	2.10	21	0.34	60	0.97	63	1.02	-	-
埼玉県	45	0.18	33	0.21	282	1.77	719	4.52	466	2.93	108	0.68	343	2.16	194	1.22	2	0.01
千葉県	7	0.04	32	0.25	252	1.98	494	3.89	297	2.34	78	0.61	174	1.37	123	0.97	7	0.06
東京都	-	-	17	0.12	81	0.57	411	2.89	153	1.08	62	0.44	107	0.75	80	0.56	-	-
神奈川県	33	0.11	37	0.18	206	1.00	776	3.77	401	1.95	83	0.40	176	0.85	235	1.14	-	-
新潟県	13	0.13	19	0.32	189	3.15	293	4.88	133	2.22	17	0.28	14	0.23	41	0.68	-	-
富山県	4	0.08	-	-	37	1.28	113	3.90	33	1.14	2	0.07	34	1.17	30	1.03	1	0.03
石川県	-	-	8	0.28	23	0.79	214	7.38	49	1.69	7	0.24	38	1.31	22	0.76	-	-
福井県	-	-	2	0.09	42	1.91	201	9.14	84	3.82	28	1.27	21	0.95	21	0.95	1	0.05
山梨県	16	0.39	-	-	17	0.68	63	2.52	53	2.12	36	1.44	39	1.56	9	0.36	-	-
長野県	14	0.16	-	-	92	1.70	281	5.20	227	4.20	29	0.54	27	0.50	40	0.74	-	-
岐阜県	16	0.22	16	0.34	67	1.43	113	2.40	72	1.53	21	0.45	33	0.70	31	0.66	-	-
静岡県	14	0.10	14	0.16	95	1.10	401	4.66	298	3.47	12	0.14	75	0.87	82	0.95	3	0.03
愛知県	12	0.06	122	0.67	219	1.20	543	2.98	405	2.23	52	0.29	171	0.94	159	0.87	3	0.02
三重県	7	0.10	12	0.27	73	1.62	301	6.69	148	3.29	75	1.67	46	1.02	60	1.33	-	-
滋賀県	-	-	41	1.28	17	0.53	74	2.31	55	1.72	6	0.19	11	0.34	19	0.59	-	-
京都府	11	0.09	5	0.07	49	0.64	374	4.92	145	1.91	11	0.14	32	0.42	52	0.68	-	-
大阪府	10	0.03	25	0.13	169	0.87	752	3.88	396	2.04	16	0.08	87	0.45	161	0.83	2	0.01
兵庫県	19	0.10	16	0.13	110	0.86	720	5.63	311	2.43	160	1.25	75	0.59	86	0.67	2	0.02
奈良県	1	0.02	3	0.09	31	0.89	160	4.57	65	1.86	7	0.20	27	0.77	33	0.94	1	0.03
和歌山県	5	0.10	3	0.10	28	0.90	147	4.74	68	2.19	2	0.06	9	0.29	29	0.94	1	0.03
鳥取県	-	-	7	0.37	72	3.79	172	9.05	38	2.00	8	0.42	3	0.16	16	0.84	-	-
島根県	5	0.13	3	0.13	6	0.26	67	2.91	17	0.74	1	0.04	-	-	15	0.65	-	-
岡山県	4	0.05	4	0.07	46	0.85	168	3.11	114	2.11	4	0.07	12	0.22	18	0.33	-	-
広島県	-	-	6	0.12	84	1.65	333	6.53	124	2.43	39	0.76	50	0.98	78	1.53	4	0.08
山口県	10	0.14	24	0.49	56	1.14	230	4.69	100	2.04	150	3.06	40	0.82	52	1.06	2	0.04
徳島県	3	0.08	1	0.04	28	1.22	83	3.61	43	1.87	25	1.09	9	0.39	23	1.00	-	-
香川県	5	0.10	1	0.03	16	0.50	140	4.38	30	0.94	2	0.06	18	0.56	30	0.94	-	-
愛媛県	-	-	2	0.05	34	0.87	151	3.87	98	2.51	24	0.62	24	0.62	25	0.64	-	-
高知県	-	-	3	0.10	32	1.03	100	3.23	95	3.06	2	0.06	4	0.13	21	0.68	-	-
福岡県	112	0.69	19	0.18	100	0.95	508	4.84	339	3.23	831	7.91	118	1.12	94	0.90	1	0.01
佐賀県	2	0.05	2	0.09	22	0.96	45	1.96	93	4.04	112	4.87	16	0.70	26	1.13	-	-
長崎県	-	-	5	0.10	25	0.52	114	2.38	52	1.08	63	1.31	7	0.15	35	0.73	1	0.02
熊本県	2	0.02	5	0.10	47	0.96	180	3.67	132	2.69	273	5.57	23	0.47	67	1.37	1	0.02
大分県	4	0.07	1	0.03	47	1.31	176	4.89	80	2.22	535	14.86	31	0.86	40	1.11	5	0.14
宮崎県	1	0.02	1	0.03	80	2.16	238	6.43	97	2.62	341	9.22	42	1.14	48	1.30	-	-
鹿児島県	36	0.37	12	0.20	43	0.72	311	5.18	133	2.22	112	1.87	16	0.27	44	0.73	-	-
沖縄県	94	1.62	-	-	6	0.18	13	0.38	76	2.24	9	0.26	3	0.09	11	0.32	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年22週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	93	0.03	1842	0.61	1411	0.47	5703	1.90	31	0.05	850	1.36	4	0.01	7	0.02	20	0.04
北海道	4	0.03	12	0.08	87	0.60	328	2.26	3	0.10	29	1.00	-	-	1	0.04	-	-
青森県	3	0.07	2	0.05	12	0.29	61	1.49	-	-	22	2.00	-	-	-	-	1	0.17
岩手県	1	0.03	6	0.16	7	0.19	26	0.70	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	37	0.63	24	0.41	47	0.80	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	0.03	3	0.09	14	0.40	29	0.83	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	6	0.20	19	0.63	-	-	3	0.38	-	-	-	-	-	-
福島県	2	0.04	2	0.04	48	1.00	54	1.13	1	0.08	22	1.83	-	-	-	-	-	-
茨城県	3	0.04	9	0.12	19	0.26	186	2.55	-	-	52	3.25	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	54	1.17	3	0.07	34	0.74	-	-	23	1.92	-	-	-	-	-	-
群馬県	2	0.03	57	0.92	8	0.13	70	1.13	1	0.07	54	3.86	-	-	1	0.10	-	-
埼玉県	4	0.03	97	0.61	46	0.29	451	2.84	1	0.03	55	1.53	-	-	1	0.11	-	-
千葉県	3	0.02	18	0.14	73	0.57	335	2.64	2	0.06	71	2.15	-	-	1	0.08	-	-
東京都	3	0.02	67	0.47	45	0.32	150	1.06	-	-	15	1.07	-	-	-	-	-	-
神奈川県	8	0.04	62	0.30	60	0.29	469	2.28	6	0.14	70	1.67	-	-	-	-	2	0.18
新潟県	1	0.02	22	0.37	1	0.02	201	3.35	-	-	7	0.78	-	-	-	-	3	0.23
富山県	1	0.03	1	0.03	-	-	35	1.21	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	2	0.07	4	0.14	30	1.03	64	2.21	-	-	8	1.14	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	17	0.77	4	0.18	161	7.32	-	-	10	3.33	-	-	-	-	-	-
山梨県	2	0.08	1	0.04	14	0.56	20	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	2	0.04	2	0.04	23	0.43	153	2.83	3	0.30	17	1.70	2	0.18	-	-	-	-
岐阜県	6	0.13	10	0.21	16	0.34	82	1.74	-	-	8	0.73	-	-	-	-	-	-
静岡県	2	0.02	23	0.27	26	0.30	170	1.98	-	-	22	1.10	-	-	-	-	2	0.25
愛知県	4	0.02	57	0.31	91	0.50	363	1.99	1	0.03	50	1.43	-	-	-	-	-	-
三重県	1	0.02	19	0.42	5	0.11	150	3.33	-	-	3	0.25	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	22	0.69	12	0.38	51	1.59	-	-	15	2.14	-	-	-	-	1	0.14
京都府	5	0.07	74	0.97	16	0.21	115	1.51	-	-	10	0.56	-	-	-	-	-	-
大阪府	8	0.04	270	1.39	109	0.56	290	1.49	-	-	39	0.75	-	-	-	-	3	0.25
兵庫県	5	0.04	220	1.72	31	0.24	128	1.00	3	0.09	22	0.63	-	-	-	-	-	-
奈良県	2	0.06	45	1.29	18	0.51	45	1.29	-	-	11	1.22	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	55	1.77	10	0.32	33	1.06	-	-	2	0.50	-	-	2	0.18	1	0.09
鳥取県	-	-	54	2.84	2	0.11	9	0.47	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	12	0.52	1	0.04	16	0.70	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	27	0.50	34	0.63	44	0.81	-	-	9	0.75	-	-	-	-	-	-
広島県	4	0.08	105	2.06	56	1.10	97	1.90	1	0.08	29	2.42	1	0.07	-	-	-	-
山口県	-	-	16	0.33	10	0.20	66	1.35	-	-	12	1.33	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	24	1.04	4	0.17	34	1.48	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	17	0.53	19	0.59	95	2.97	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	45	1.15	12	0.31	69	1.77	1	0.14	21	3.00	-	-	-	-	-	-
高知県	2	0.06	25	0.81	7	0.23	9	0.29	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
福岡県	4	0.04	123	1.17	117	1.11	442	4.21	-	-	32	1.33	-	-	1	0.07	3	0.20
佐賀県	-	-	14	0.61	17	0.74	97	4.22	-	-	4	1.00	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	1	0.02	9	0.19	14	0.29	50	1.04	6	0.60	19	1.90	-	-	-	-	-	-
熊本県	3	0.06	47	0.96	86	1.76	102	2.08	-	-	29	3.22	-	-	-	-	2	0.13
大分県	-	-	18	0.50	40	1.11	72	2.00	-	-	5	1.00	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	29	0.78	54	1.46	59	1.59	-	-	10	2.50	1	0.14	-	-	1	0.14
鹿児島県	-	-	3	0.05	33	0.55	74	1.23	1	0.17	5	0.83	-	-	-	-	-	-
沖縄県	3	0.09	6	0.18	47	1.38	48	1.41	1	0.10	6	0.60	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年22週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	62	0.13	1	0.00	52	0.11
北海道	1	0.04	-	-	5	0.22
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	2	0.10
宮城県	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.08	-	-	6	0.46
東京都	-	-	-	-	5	0.20
神奈川県	-	-	-	-	5	0.45
新潟県	1	0.08	-	-	1	0.08
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	1	0.20
福井県	2	0.33	-	-	-	-
山梨県	4	0.40	-	-	1	0.10
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	2	0.15	-	-	-	-
三重県	3	0.33	-	-	1	0.11
滋賀県	3	0.43	-	-	1	0.14
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	8	0.67	-	-	3	0.25
兵庫県	-	-	-	-	5	0.36
奈良県	5	0.83	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	1	0.09
鳥取県	1	0.20	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-
山口県	2	0.22	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	4	0.67	-	-	-	-
高知県	6	0.75	-	-	-	-
福岡県	1	0.07	-	-	1	0.07
佐賀県	-	-	-	-	3	0.50
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	3	0.20	-	-	4	0.27
大分県	2	0.20	-	-	1	0.10
宮崎県	4	0.57	-	-	2	0.29
鹿児島県	4	0.33	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	1	0.14	4	0.57

感染症週報 第3巻、第22号 平成13年6月15日発行  
 発行：国立感染症研究所  
 厚生労働省健康局結核感染症課  
 厚生労働省大臣官房統計情報部  
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
 T E L : 03-5285-1111  
 F A X : 03-5285-1129  
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>  
<http://www.mhlw.go.jp/>  
 <厚生労働省>  
<http://www.forth.go.jp/>  
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。